

高岸税務会計事務所 ニューズレター

当税理士事務所は気軽に相談でき、親身に
相談にのる税務・財務のスペシャリストです

〒569-0803 大阪府高槻市高槻町 9-19-202

電話番号：072-683-0230 FAX：072-683-0376

<https://www.gishitax.com/>

mail：info@gishitax.com

お気軽にお問い合わせ下さい 072-683-0230

(JR 高槻駅・阪急高槻市駅から徒歩約3分)



縄文ブームがじわじわと広がっています。昨年は東京国立博物館で「縄文展」が開かれた他、映画『縄文にハマる人々』が上映され、「縄文」をビジネスに置き換えたビジネス書『縄文力で生き残れ』も話題になりました。自然と共存し自給自足の生活だった縄文人。意外なことにうわさ話で盛り上がっていたようですよ！

【一攫千金で手に入れた夢の後処理は忘れずに】

一攫千金は夢があつて魅力ですが、その後の適正な処理も大切です。競馬や競輪などの公営ギャンブルで得た一定以上の所得は「一時所得」や「雑所得」として申告する義務があります。例えば競馬で馬券を自動的に購入するソフトウェアを利用して独自の条件設定などでその年のほぼ全てのレースに挑戦し、年間を通しての収支で利益を得られるようにした場合は雑所得に該当します。その際の外れ馬券の購入費用は必要経費となります。

一方、一般の競馬愛好家については一時所得に該当し、外れ馬券の購入費用は必要経費として控除することはできません。

このように特殊な場合を除いては、年間50万円までの競馬の払戻金には税金はかからず申告する必要はありません。税金がかかるとしてもその対象は50万円を超えた金額の半分です。国の行政機関である会計検査院の発表によると、2015年に公営ギャンブルで1回の払戻金が1050万円以上だったケースは約530口で127億円の払戻金があったそうです。このうち一時所得や雑所得で適正に申告されたのは50数件、約20億円にとどまったとか。現在、窓口での購入や払戻金の受け取りに本人確認は不要で、主催者側が税務当局に通知する仕組みもあります。そのため適正な申告を促す取り組みが課題となっています。ちなみに宝くじの当選金は非課税です。



【「もちもち」「ふわふわ」で長蛇の列が】

大阪発祥の高級食パン専門店が続々と首都圏に攻勢をかけています。原材料や製法を研究し尽くした高級食パンは「もちもち」「ふわふわ」の食感とおいしさが魅力です。ちょっとしたぜいたくや自分へのご褒美に購入する人たちの長蛇の列が絶えません。ブームの先駆けとなった「乃が美」の『「生」食パン』は柔らかさと口溶けの良さでお年寄りから絶大な支持を受けています。ターゲットや立地、ブランドイメージなど各社独自の販売戦略で全国に店舗が広がっています。



今月の教えてキーワード：【プラットフォーム】

第三者がビジネスを行うための基盤(プラットフォーム)を提供する企業のこと。検索やネット通販、SNS、広告配信など第三者がインターネット上で使用するソフトウエアやアプリケーションなどを構築および提供し運営を手掛ける。現在、主力であるアメリカのIT企業のグーグル・アップル・フェイスブック・アマゾンなどは頭文字を取り「GAFA」と称される。一方で一部の企業によるデータや利益の寡占化が問題視されている。

【顧客の声は聞くべからず?】

「お客さまの声をよく聞きなさい」といわれます。商売のヒントも答えも、全てはお客さまの声にあるという考え方は、顧客満足を追求するうえではもっともな意見でしょう。現場のリアルな反応には、そこでしか得られない鮮度の高い情報が反映されています。ところが、顧客の意見をできるだけ取り入れた結果、商品がまったく売れなかったという話も聞きます。顧客がデタラメを言ったのでしょうか?それとも顧客の意見を読み違えたのでしょうか?『ユーザ中心ウェブビジネス戦略』という本によれば、これは人間の無意識による結果だそうです。行動心理学とデータ分析で多くの顧客の行動を観察してきたという本書の中で、とても興味深い事例が紹介されていました。ある食器メーカーが主婦5人に「次を買うとしたらどんな食器が欲しいですか?」と聞きました。主婦たちは話し合い「黒くて四角いおしゃれなお皿が欲しい」という意見でまとまりました。その帰り際に「お礼としてサ



ンプルの食器の中から好きなお皿をひとつお持ち帰りください」と言うと、なんと5人全員が「白くて丸いお皿」を選んだとか。その理由は「自宅のお皿は丸いものばかりなので、丸いお皿でないと重ねて置けない」「テーブルの色に合わせて食器は白でそろえている」などだったそうです。落語のオチのような話ですが、行動心理学的で考えられる理由のひとつは想像力の限界です。「黒くて四角いおしゃれなお皿」は主婦5人の想像で、具体的にあるわけではありません。人は、具体的でないものに対して良しあしの判断をつけられないそうです。

もうひとつは認められたい願望です。グループで話し合うと、他のメンバーや主催者に認められやすい発言をしがちだそうです。ただ、これは人間として仕方のないことなのでしょう。主婦がデタラメな話し合いをして「黒くて四角いお皿」と言ったわけではなく、人間の無識がなせる「認識」や「認知」の表れ方のひとつなのです。顧客の声なんてアテにならないという話ではありません。最終的に決めるのは全て自分自身なのです。

今を生きる 先人の言葉

寸法で組まず
木の癖で組め

法隆寺専属の宮大工である西岡常一の言葉。人にもそれぞれの環境で身に付いた癖がある。強引に枠にはめようとせず、それぞれの癖を生かした仕組みを考えよう。

サラリーマン妻
川柳

片足で
乗っても
変わらぬ
体重計
(そして)
だみ束って
ねけたどん
たどん

大阪府高槻市・茨木市・島本町・枚方市、京都府長岡京市の税理士事務所